

2023年10月26日
富士電機株式会社

2023年度 第2四半期決算説明会 近藤社長C00挨拶

富士電機の近藤でございます。本日は2023年度第2四半期決算説明会にご参加をいただき誠にありがとうございます。2023年は富士電機にとって創業100周年になります。

そして、今年度は5ヶ年の現中期経営計画の最終年度ですが、売上高1兆円、営業利益率8%以上ということを目指して進めてまいりました。営業利益率については2年前倒し、売上高1兆円の目標も昨年度に1年前倒しで達成できました。

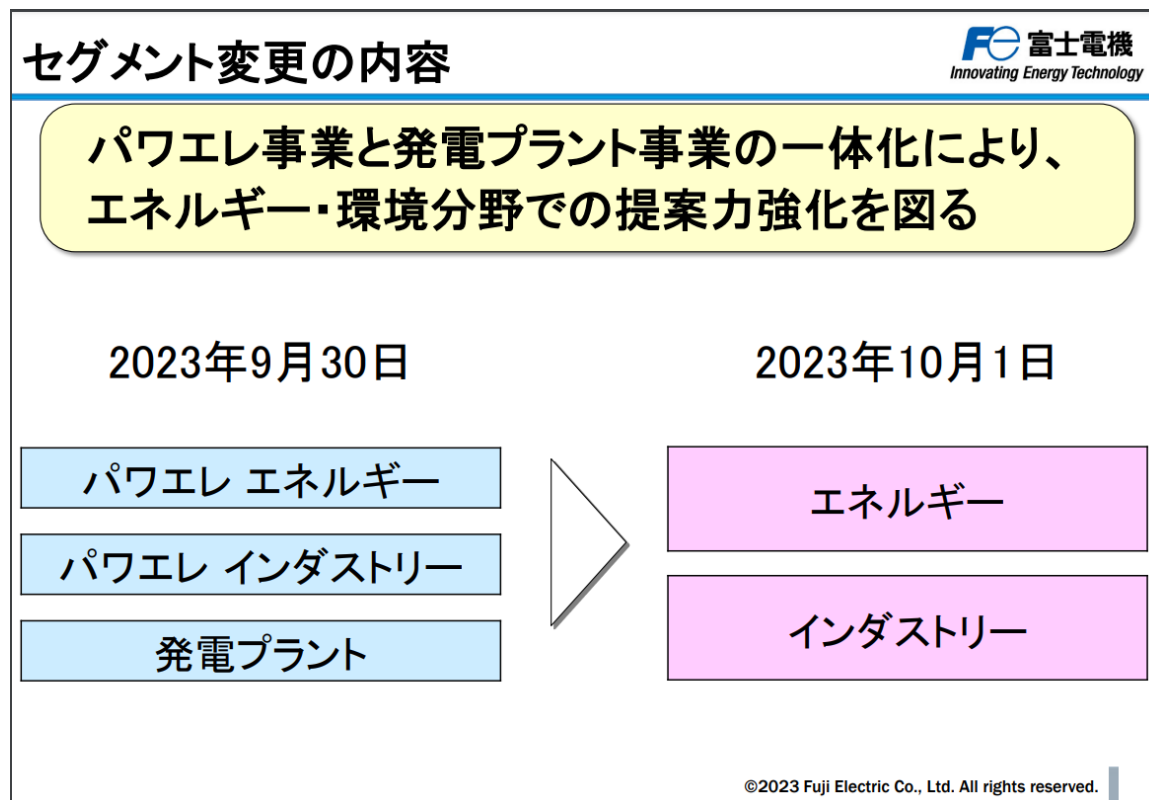
期初の計画を発表したタイミングでは、2023年度の課題として次期中期経営計画に繋がる形で2023年度を仕上げたいと申し上げました。具体的には利益重視の経営に今一度立ち戻り、営業利益のみならず当期利益にもこだわりたいと申し上げました。

2023年度は営業利益率9%超えを目標の一つに定めております。上期の決算は、後ほど荒井からもご説明をさせていただきますが、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益いずれも過去最高の数値となりました。

ただ、市場の状況、あるいは世界を取り巻く状況が非常に不透明になっています。当社に関連するところでは、中国経済の状況、あるいは昨今の中東情勢を受けて、資源価格が今後どのように変動してくるか、さらにインフレ、あるいはそれに伴う政策金利、為替の動向といったところを注視しながら、この後もオペレーションしていかねばならないと思っております。

この第3四半期も残り約2ヶ月となりますが、今申し上げたような動向をしっかりと見極め、予測しながら、この2023年度をどのように仕上げ、2024年度からの新しい中期経営計画をどういう発射台とするのか、詰めてまいりたいと思っております。

既報の通りですが、10月1日付けで組織の再編をいたしました。



新中期経営計画の先取りという側面もありますが、具体的には、パワエレ エネルギー、パワエレ インダストリー、発電プラントとしていた3つのセグメントをエネルギーとインダストリーの二つのセグメントに再編しております。

先日の事業戦略説明会の中でご説明した成長フレームワークの中で、富士電機の今後の成長のキーとしてパワエレと発電のシナジーについてお話させていただきました。再生可能エネルギーの導入がさらに促進していく中でPPA、需給調整、地域型のマイクログリッドなどで、エネルギーマネジメントと新エネルギーのシナジーが生まれる。あるいは発電プラントの原子力設備のビジネスとパワエレ インダストリーの放射線機器関連のビジネスにもシナジーが期待できる。という話をさせていただきました。次期中期経営計画として、この下期から計画を立てるとともに、その融合の成果を今年度から刈り取れないかということで、今回セグメント変更を行っております。

セグメント変更の内容

2023年9月30日

| パワエレ エネルギー | |
|--------------|----------------|
| エネルギー・マネジメント | エネマネ 変電システム |
| 施設・電源システム | |
| 器具 | |

| 発電プラント | |
|--------|----------------|
| | 火力・地熱・水力 |
| | 新エネルギー(太陽光・風力) |
| | 原子力 |

| パワエレ インダストリー | |
|--------------|--------------------------|
| オートメーション | |
| 社会ソリューション | 放射線機器システム 輸送システム 他 |
| 設備工事 | |
| ITソリューション | |

2023年10月1日

| エネルギー | |
|--------------|----------------------------------|
| 発電プラント | 火力・地熱・水力 |
| エネルギー・マネジメント | エネマネ 変電システム 新エネルギー(太陽光・風力) |
| 施設・電源システム | |
| 器具 | |

| インダストリー | |
|-----------|------------------------------|
| オートメーション | |
| 社会ソリューション | 原子力・放射線機器システム 輸送システム 他 |
| 設備工事 | |
| ITソリューション | |

©2023 Fuji Electric Co., Ltd. All rights reserved.

具体的には、火力・地熱・水力をエネルギーのセグメントの中の発電プラントに置き、太陽光・風力を中心とした新エネルギーをエネルギー・マネジメントに統合する。そして発電プラントにあった原子力をインダストリーの中の社会ソリューション内の放射線機器関連のビジネスと統合し、原子力・放射線機器システムという形で推進していきます。

成長フレームワークの一つのアイテムとして、この10月から組織再編をして、成果の刈り取りを行い、次の中期経営計画の戦略をしっかりと作っていきたいと考えております。なかなか見通しにくい経済状況ではありますが、しっかりとオペレーションを行い、確実に利益を確保してまいりたいと思っております。

以上